

あかし市議会だより

266号
2024年(令和6年)
1月7日発行

編集・発行 明石市議会 〒673-8686 明石市中崎1丁目5番1号 TEL911-2600・FAX918-5112

謹賀新年

自由民主党明石

出雲 有希子
石井 藤宏 法順平
灰野 圭修 夫介
榎本 住和 啓宏
千住 好巳 浩司
三辰 巳

公明党

河村 和歌子
長尾 博あき子
尾倉 伸志
飯田 拓宏
国出 田

市民の会

中山 川夏 望祥
山 下 良信
金 尾 智子
黒 田 裕司
山 中

明石かがやきネット

林 丸美子
竹内 きよ太
宮坂 祐吉 広
寺 井 吉

明石維新の会

上田 雅彦
中正 村茂 幸彰
高 木 秀 彰

日本共産党

辻 本 達也

対話の会あかし

中西 礼皇

スマイル会

根谷 敦子
(会派別・議席順)



明石海峡の広い空に昇っていく輝かしい日の出(大蔵海岸にて)

令和5年第3回定例会12月議会が11月29日から12月20日まで開かれました。副市長の選任や物価高騰対応支援給付金給付事業費を含む令和5年度明石市一般会計補正予算など、議案19件、諮問4件を可決・同意、報告3件を了承したほか、請願1件を採択しました。

誰一人取り残さない持続可能な まちづくりに向けて



明石市議会議長

尾倉 あき子

あけましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、令和6年の輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類へ移行したことに伴い、行動制限が解除され経済活動が活発になり、まちににぎわいが戻ってまいりました。その一方で、国際情勢に起因する原油価格の高騰や円安の影響等による物価高騰が続いており、市民の皆さまの生活も厳しい状況が続いております。引き続き、皆さまの

生活を守るため、必要な支援が届くよう全力を尽くしてまいります。

現在、本市はSDGs未来安心都市・明石を掲げ、2030年のあるべき姿の実現を目指し、いつまでもすべての人にやさしいまちづくりを進めています。市議会としましても、誰一人取り残さない持続可能なまちづくりに向けて、丁寧な議論を積み重ねてまいります。

この1年が市民の皆さまにとって幸多き、希望に満ちた年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

副市長に

永野氏

横田秀示氏のご逝去に伴い、令和5年8月19日から空席となっていた副市長に永野潔氏を選任することに同意しました。

永野氏は、昭和56年か

ら明石市に奉職され、政策部中核市担当部長、市民生活局長などを歴任。平成31年からは一般財団法人明石コミュニティ創造協会理事長を務めています。本市の副市長は2人制で永野氏の任期は12月21日から4年間です。

もくじ

- 2 市政を問う 24人が登壇
質疑・一般質問
- 4 請願
- 4 議員よもやま話

6 先進的な取り組みを視察 委員会行政視察

7 特集 会派の紹介

8 各議員の議案等に対する賛否を掲載 議案の賛否一覧



市議会だよりを
スマホで読める



※利用にはアプリのダウンロード
が必要です。



質疑・一般質問

12月6日、7日、8日の本会議では、24人の議員が登壇し、不登校対策や明石川の水質の安全性などについて、市の見解を求めました。

発言者と質問項目の一覧は下段に、主な内容は2面から5面に掲載しています。

なお、QRコードを読み取ると本会議の録画映像をご覧いただけます。



発言者一覧

—発言順— () は会派名

- 中川夏望** (市民の会)
①インパクト投資 ②医療的ケア児への対応 ③子育て支援のさらなる拡充
- 竹内きよ子** (明石かがやきネット)
①放課後児童クラブの課題 ②人生100年時代、健康長寿命で安全なまちづくりを ③本市の小・中学校の抱える課題とその対応 ④不登校対策、ポストコロナ社会における子どもの居場所
- 正木克幸** (明石維新の会・代表質問)
①新たな財源確保に向けた中長期的な政策ビジョン ②業務効率を上げることによる財源確保
- 千住啓介** (自由民主党明石・代表質問)
①今後の明石市の方向性
- 梅田宏希** (公明党)
①国の重点支援地方交付金 ②工場緑地面積率の緩和 ③带状疱疹ワクチンの助成制度 ④動物と共生するまちづくり
- 黒田智子** (市民の会)
①不登校対策 (COCOLOプランにどう取り組むのか) ②インクルーシブなまちづくり ③「ステップハウス」等の自立支援
- 林丸美** (明石かがやきネット)
①協働のまちづくり ②こどもの居場所、遊び場
- 高尾秀彰** (明石維新の会)
①小・中学校の空調設備の整備 ②新中崎分署
- 出雲有希子** (自由民主党明石)
①明石市立市民病院の老朽化対策 ②明石川を水源とする水道水の水質 (安全性)
- 河村和歌子** (公明党)
①ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症の対策 ②独り暮らしの高齢者が地域で安心、安全に生活するための支援
- 山中裕司** (市民の会)
①ごみの減量に向けた施策の取組状況 ②動物の愛護と適切な管理 ③大久保北部の里山保全に向けた取組
- 宮坂祐太** (明石かがやきネット)
①福祉人材の確保・育成・定着支援と高齢者福祉施設の整備促進
- 中村茂雄** (明石維新の会)
①高齢者詐欺被害 ②脱炭素に向けた取組
- 石井宏法** (自由民主党明石)
①明石市内での打ち上げ花火 ②本市の水道事業
- 長尾博子** (公明党)
①小・中学校における体育館の空調設備の設置 ②校内フリースクールの設置による不登校児童生徒への支援の充実
- 金尾良信** (市民の会)
①明石商業高等学校福祉科開設 ②市内の小・中学校、特別支援学校への支援 ③福祉人材の育成・確保 ④石ヶ谷公園の利用
- 寺井吉広** (明石かがやきネット)
①高齢者施策 ②山陽電鉄西井ヶ島駅バリアフリー整備 ③明石市内の犯罪被害
- 上田雅彦** (明石維新の会)
①高齢社会における本市の対応 ②播磨臨海地域道路
- 井藤圭順** (自由民主党明石)
①選挙の投票機会の確保 ②明石市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
- 国出拓志** (公明党)
①気象防災アドバイザー ②庁内の空調 ③保育施策 ④自治会運営
- 山下祥** (市民の会)
①誰一人取り残さない「海のまち」づくり ②安心できる「子どものまち」づくり ③新たな財源を生み出す施策
- 辻本達也** (日本共産党)
①明石川の水質汚染 ②消防中崎分署の移転 ③市民相談への対応 ④公職選挙法第178条 ⑤林崎掘削 ⑥クビアカツヤカミキリ対策
- 中西礼皇** (対話の会あかし)
①明石川の水質・PFAS (有機フッ素化合物) の問題 ②大久保北部市有地
- 家根谷敦子** (スマイル会)
①誰一人取り残さないまちづくり

明石市立市民病院の再整備 プロジェクトチームで検討 来年度に具体的な方向性示す

問 明石市立市民病院の再整備について、昨年7月に庁内で地域医療のあり方検討プロジェクト

クトチームを設置したが、検討状況や今後のスケジュールを聞く。

答 プロジェクトチームは、将来の地域医療の動向を踏まえ、市民病院が果たすべき役割や医療機能、経営健全化の観点から検討を重ねるため設置した。検討に当たっては、多角的、専門的な分析等が必要となるため、専門業者による調査も行い、10月には市民病院の現地視察を行った。同チ



将来の地域医療の在り方も検討

ムでは、現在、老朽化の現状把握や長寿命化の可能性、整備手法の検討に加えて、医療二

ーズの把握、将来設計等の経営および財政面における検討など、情報収集や分析等に取り組んでいる。今年度中に調査・分析結果を取りまとめ、来年度には有識者等を含む検討会議を立ち上げ、具体的な再整備の方向性を示していきたい。

働きやすい福祉現場の環境づくり

事務効率化や待遇の改善が重要

問 福祉人材の育成・確保の取り組みを聞く。

答 福祉現場で働く全ての職員が働きやすく、働き続けたい環境づくりを支援するため、介

護・障害福祉分野の資格取得支援や研修および就職フェアの実施など、幅広い施策を展開している。昨年7月からは順次、関係団体や

福祉現場で働く職員にヒアリングを行うとともに、高齢者や障害者施設の職員にはWEBアンケートを実施した。やりがいや信念を持って仕事に取り組む人が多くいる一方、待遇や労働環境の改善を求める声も多く、事務負担等の軽減は利用者支援

の充実や職員の定着につながる重要な取り組みであると考えている。今後も、あかしの福祉の好事例集を参考にヒントとなる情報を発信するなど、各事業者の事務の効率化を支援するとともに、より効果的な支援策を調査研究していく。

不登校児童生徒

過去最多を更新

課題と支援は

問 本市の不登校の現状と課題および学校内外の支援について聞く。

答 令和4年度の本市の不登校児童生徒は、中学生564人、小学生230人で、ともに過去最多であった。

支援については、児童生徒が進路を主体的に捉え、社会的な自立を目指す必要がある。いかに個々の状況に応じた丁寧な支援を実施していくかが課題の一つである。学校内の居場所として、教室に入りにくい児童生徒は小学校では保健室や相談室などで、中学校では支援教室で学習支援や時間差登校の対応など、

長期間不登校の児童生徒はスクールカウンセラーにつなぐなど、個々に応じた支援を行っている。学校外の居場所としては、市教育支援センターのむくせい教室、公設民営のあかしフリースペース・トロッコ等がある。今後も児童生徒が適切な支援を受けられるように努めていく。

高齢者のフレイル予防 早期の対策が重要

地域連携の取り組みを進める

問 本市のフレイル予防の取り組みを聞く。

答 フレイルとは、加齢に伴い、心身の機能が低下した虚弱な状態を指し、状態が進むと要介護状態につながるた

め、早期の気付きによる適切な対策が重要である。本市では、フレイルの概念や予防の柱である運動・栄養・社会参加について、広報紙等で周知するとともに、フレイル予防や介護予防に関する出前講座や体操を中心とした自主グループ活動の育成や運営費補助など、高齢者の主体的な活動を支援している。

今年度からはフレイルチェック事業を開始し、フレイルサポーターの養成研修やふれあいの里でフレイルチェ



フレイルサポーター養成研修

ック会を順次開催する。今後、高齢者のさらなる増加が見込まれる中、健康寿命を延ばすフレイル対策の必要性は高まると認識しており、地域団体と連携した効果的な取り組みを進めていく。

学校体育館への

空調設備の設置

市の見解は

問 温暖化により熱中症のリスクが高まっている。学校の空調設備の設置状況および体育館の活用状況を聞く。

答 本市の市内全小・中・養護学校の普通教室と特別教室への空調整備は、令和2年度までに完了している。熱中症対策として夏場の体育館での授業は、窓を全開にしてスポットクー

ラーや大型扇風機を使用するなど、暑さの緩和に努めている。また、教員は授業中も児童生徒に水分補給を促し、早い段階で異変に気付くよう見守りを行い、暑さ指数が基準を超えた場合は、運動を中止している。

なお、全国の小・中学校体育館への空調設備の導入率は令和4年9月時点で約12%、全館空調は限定的で部分空調が多く、本市も他市事例を参考に必要経費など総合的な検討が必要と考える。

誰もが楽しめる砂浜へ 大蔵海岸のユニバーサル化 体験イベントの実績重ね検討

問 大蔵海岸のビーチのユニバーサル化について、市の考えを聞く。

答 大蔵海岸は、車いすやベビーカーの利用者が公共交通機関を使用して行くことができる

よう、JR朝霧駅から朝霧歩道橋とエレベーターを経て、砂浜までのスロープを整備している。また、砂浜用車いすの貸し出しなども行っている。

昨年8月に障害のある人も海水浴が楽しめる水陸両用の車いす体験会、9月に砂浜にビーチマットを敷き、誰もが不自由なく移動できるユニバーサルビーチ体験会を実施した。協力いただいた団体からは、大蔵海岸におけるビーチのユニバーサル



砂浜までのスロープ(大蔵海岸)

化の可能性を感じたとの意見を聞いている。今後は、持続可能な運用方法を模索する必要があると考えており、体験イベントをモデル的に実施し、実績を重ねながら検討を進めていきたい。

多発する特殊詐欺被害

犯罪を未然に防ぐ取り組み

県は録音機能付き電話機の購入を補助

問 安全・安心なまちづくりを目指す本市として、犯罪をできる限り未然に防ぐ取り組みが必要である。特殊詐欺被害が過去最悪のペースで増えていることを受け、県は65歳以上の県内在住者を対象に自動録音機能付き電話機の購入に最大1万円を補助すると発表した。市として、県の制度を

答 本市の昨年11月末時点の特殊詐欺被害件数は63件、被害額は1億7千万円と過去最悪の状況である。犯罪抑止のためには、明石警察署や防犯協会、地域との連携が重要であり、あらゆる機会や場所で防犯



補助対象者は65歳以上の県内在住者

情報発信など、啓発に取り組んでいる。なお、県の自動録音機能付き電話機の補助制度については、市としても利用できるように制度設計に取り組むとともに市民に積極的に広報していきたい。

医療的ケア児の支援 専門職員を配置し 今秋に相談窓口設置へ

問 日常生活を営むために医療を要する医療的ケア児への支援体制の構築に向けたワンストップ窓口の取り組み状況

答 現在、学識経験者や医療関係者等を交えて庁内外の連携・相談体制の構築などに向けた検討を進めている。

まずは医療的ケア児やその家族からの相談に対応できる窓口を今年秋ごろをめどに障害福祉課内に開設する。窓口では、福祉や医療的相談に対応できる専

門職員を配置し、医療的ケア児等コーディネーターが配置されている相談支援事業所と連携し、個々の家族と顔の見える関係づくりを進める。また、保育や教育、福祉サービス等の支援の確認が分かりやすいリーフレットを配布する。なお、相談窓口の開設までは既存の関係部署での対応となるが、横の連携を密にして個々の事情に寄り添う対応に努める。

高齢者等の投票機会の確保 投票所に行くことが 困難な人への支援は

問 投票所に行くことが困難な人への投票機会の確保について、市の見解は。

答 高齢や障害等で投票所への移動が困難な人には、病院等施設での不在者投票制度や自宅に投票する郵便投票制度がある。郵便投票制度は身体障害者手帳等が交付され、その障害が一定程度に該当する人や要介護5の人に限り、国は認定要件を要介護5から3以上に緩和することを検討しており、市



より投票しやすい環境づくりを

は、その動向を注視している。投票所に行きたくても外出できない人や現行の郵便投票制度の対象外の人がある中、市

問 独り暮らし高齢者の安全・安心な生活を支える施策の現状を聞く。

答 独り暮らし高齢者の多くは、体調の急変や転倒によるけがなどの

独り暮らし高齢者の安心へ 生活支える施策の現状は

緊急時に助けを呼べず孤独死につながるリスクや認知症の進行などの不安を感じている。その対策として市は、緊急通報装置を貸与し

日常生活用具の給付、孤立防止を目的としたふれあい会食やみんなの給食、安否確認事業等を実施している。さらに、民生児童委員や地域総合支援センター等、高齢者と接する関係機関との連携を密にして支援を行っている。

高齢者福祉施設の整備に課題 資材高騰や福祉人材の不足 魚住清掃工場跡地の活用は

問 高齢者福祉施設の整備を促進するための取り組みについて聞く。

答 本市は、令和3年度

からは、投票の公正確保に留意しつつ有権者が抱える投票の制約をできる限り解消し、さらなる投票機会の創出に努めたい。

問 中崎遊園地に建設予定の消防署中崎分署は、緊急車両の出入り口が国道28号に面し、渋滞時の動線に不安があるが、市の考えは。



新中崎分署の建設予定地

答 周辺を中心市街地を管轄する分署であり、国道28号へのアクセスが容易なことなどから、現在の候補地が最適と判断した。円滑に出動するため、国道28号に駐停車

国道28号に面する新中崎分署 渋滞時などの動線に不安 緊急車両の円滑な出動体制を

禁止の路面表示を設けるための協議を予定している。また、市内の他の署所で渋滞等で出動できなかった事例はなく、県下には国道に接した消防庁舎も多い。出入り口が渋滞等でふさがっている場合は、車列に前後左右に詰めてもらうか、一般車両を敷地に誘導し隙間を空け、動線を確保する等、円滑な出動体制を確保していく。

から5年度の第8期介護保険事業計画において、団塊世代ならびに将来的な団塊ジュニア世代の高齢化等を見据え、介護保険施設の整備に努めてきた。特別養護老人ホーム(以下特養)については、計画に定める148床の整備を進めるため、建築費補助金の上乗せ交付や市有地である魚住清掃工場跡地の活用等に取り組んできた。しかし、建築資材の価格高騰や福祉人材の不足等の要因も重なり、新築による整備事業者の決定には至っていない。今後は、6年度から8年度の第9期介護保険事業計画における特養等の整備予定数に応じて、魚住清掃工場跡地を活用した整備ができるよう、第9期の計画期間内の早い段階で再公募を検討していきたい。

市政課題への取り組み

財政白書を作成し施策を検討
優先順位を見極め着実に進める

問 本市の財政見直しを踏まえ、山積した課題を今後どう進めていくのか。

答 本市の財政状況は継続的な人口増加に伴い、市税収入など歳入は継続的に増加している。また、市債残高は減少し、基金残高は増加しており、財政指標も健全な水準を維持しているため、今後も直ちに持続可能性が問題になることはない認識している。



財政指標は健全な水準を維持

新たな財源確保へ

地域産業の活性化 市の取り組みは

問 新たな財源の確保として地域産業の活性化が必要ではないか。

答 本市は、あかしSDGs前期戦略計画において地域産業振興を掲げ、産官学等の連携により、本市の産業を支える中小企業の基盤強化と事業継承を支援し、技術革新による産業構造の転換に対応した起業・創業しやすい環境整備等の支援に取り組むとしている。

ている。しかし、こどもを核としたまちづくりなど積極的な施策展開により、扶助費等が増加し、今年度は電力高騰等の影響から約21億円の基金を取り崩す予定だ。今後も財政運営を楽観することなく、慎重に臨む必要があるため財政を見える化し、市民や議会と共有できる財政白書を作成したい。各施策の検討・実施は、優先順位を見極

インクルーシブなまちへ 産官学民の共創で 新たな取り組みを

問 インクルーシブなまちづくりの現状と課題、今後の方向性について市の考えを聞く。

答 本市は、令和4年4月に、すべての人が自分らしく生きられるあかしインクルーシブ条例を施行し、市民にインクルーシブの理念を広く理解してもらうためのパンフレット等を作成し、啓発活動を実施している。また、多

め、市の財源だけでなく、産官学民と連携しながら必要な施策を着実に進めていきたい。

新たな取り組みを

様な人々がお互いを知り、対話をし、理解し合い、楽しみながら交流することが大変有意義であると考えており、障害の有無にかかわらず誰もが参加し交流できるイベントを実施してきた。しかし、講演型のイベント等は市民の方が気軽に参加するまでには至らず、実施内容や周知方法に改善の余地があると考えている。

今後は、産官学民と共創し、若い人の力も借り、より自由な発想で新しい形の取り組みを検討していく。

大久保北部の市有地 利活用に向けて調査を実施

問 大久保北部市有地の利活用について、市の考えを聞く。

答 約19ヘクタールある大久保北部市有地について、長年、有効な方策を模索してきたが、市街化調整区域内にある、民有地が混在している、道路との接続が悪いことに加え、自然

ながら必要な施策を着実に進めていきたい。

問 本市が導入しているNET119の周知啓発について、市の考えを聞く。

答 NET119緊急通報システムは、聴覚や言語機能などに障害があり、音声による緊急通報が困難な人に携帯電話のインターネット機能を通じた簡単な画面

インターネットで消防に通報できる NET119緊急通報システム 今後も市民への周知を図る

面操作で消防局に通報できるサービスで、本市は平成29年2月より運用している。利用対象者は、市内在住、在勤、在学の聴覚や言語機能等に障害がある人で、消防局への事前登録が必要となる。運用開始時に説明会を開催し、昨年11月にも明石難聴者の会への説明会を開催したほか、消防局のホームページや障害福祉のしおりに掲載するなど普及啓発を行っている。今後も広く周知するため、広報あかし等への掲載や障害者手帳の交付時には説明を行い、誰もが安心して暮らせるよう取り組みを進めていく。

課題を整理している。今後は、本市のまちづくりの理念であるSDGsの考えを基本に、ネイチャーポジティブ(自然再興)などの考え方も取り入れた生態系の保全を前提に、市内唯一の里山を生かした将来にわたる利活用



多様な生態系を維持している里山

災害被害の軽減へ 気象防災アドバイザー 職員を4月に採用

問 気象防災アドバイザーの委嘱について、市の考えを聞く。

答 気象防災アドバイザーは、気象庁が平成29年度に創設した比較的新しい制度で、気象、

調査・検討した結果、災害時の気象分析、防災に係るアドバイス、気象台との連絡調整など多岐にわたって業務に携わってもらうため、今年4月1日付で任期付職員として採用する予定である。今後は、専門性を活用し、市民の安全と健康、財産を守る取り組みを進めたい。

議員ふもやま話

▽採択された請願△
○打ち上げ花火の安全な実施のために、市民が協力して取り組む安全に関する請願

議員ふもやま話

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。
2024年は皆さまにとって飛躍の年になりますように祈念いたします。
昨年は、阪神タイガースが日本一、オリックス・バファローズがパ・リーグ優勝、ヴェルセル神戸がJリーグ優勝と、関西を盛り上げ、熱気に包まれた年でした。
わが家では、子どもが小さなときは、大みそかには年越しそばを食べ初詣に出かけたものです。子どもたちが独立して自分の時間が持てるようになり、美しい景色を見て感銘を受けたり、心を揺さぶる書籍、映画に出会うことを楽しみにしながら、年は1つ取りますが、気持ちだけは明るく若くいきたいものです。少しドキドキすることにもワクワクし、失敗を恐れず挑戦もし、後の人生納得しながら、健康にも配慮して過ごせたらと感じる今日この頃です。一日一日、皆さまにとっても自分を褒められる何かがあればいいですね。「人にもモノにも優しい市になれますように。」

市議会議員は公職選挙法で 年賀状や寄付、祝いなどは 禁止されています。

皆様のご理解を
お願い申し上げます。



明石川の水質問題 飲み水は問題なく安全 国へ早期対応を要望

昨年、国が設置した専門家会議で今後の情報収集と研究の推進が方向性として示され、本市としてもその動向を注視していく。

なお、明石川浄水場では、活性炭を用いて浄水処理をしており、飲み水としての問題はなく、安全である。

明石川は神戸市と本市にまたがる河川である。現在、神戸市は国に対して全国一律の水質等の基準値の設定やPFASの人に対する



神戸市と連携を強化(明石川)

問 明石川流域の住民の血液から基準値を超える有機フッ素化合物(以下PFAS)が検出された。今後の市の対応は。

答 PFASの影響は科学的知見がなく、現在も国際的にさまざまな知見に基づく検討が進められている。

工場緑地面積率の緩和 県条例対象工場も引き下げ 二見人工島は1%に

問 令和4年に明石市工場立地法地域準則条例が施行され、特定工場

の緑地面積率等は緩和されたが、依然として、県の環境の保全と創造に関する条例対象工場は、20%以上の緑地面積確保が必要である。また、二見人工島は、隣接する播磨町と同様に緑地面積率等をさらに緩和するべきと考え

答 市内全域の県条例対象工場については、今年4月から工場立地法に基づき、市が定めている基準と同水準まで緩和する。二見人工島

毒性評価などを要望している。本市も市民の健康を守るため、これらの事項について国に早期の対応を要望していく。今後も神戸市とは水質監視や発生源の特定などについて、連携強化を図っていく。

脱炭素の取り組み

電気自動車普及へ 充電設備の整備を

問 本市は2020年3月、気候非常事態宣言の中で、2050年までにCO2排出実質ゼロを目指す

と表明している。脱炭素に向けては、再生可能エネルギーの導入促進とともに電気自動車の普及が重要であり、国も2035年までに全ての乗用車の新車販売を電気自動車等の電動車とする目標を掲げている。市

は、地域未来投資促進法に基づき、工場立地法と県条例の対象工場のいずれも隣接する播磨町側と同じ1%まで緩和する。さらに事業者に良質な緑地の形成や地域貢献活動、CO2排出量の削減を促すため、取り組み方針や優良事例を示したガイドラインを策定するなど、SDGsの3側面(経済・社会・環境)に配慮した取り組みを推進する。

新ごみ処理施設の建設費抑制へ

ゼロ・ウェイストの考え方を導入し 再資源化を推進

問 ごみの減量に向けた施策の取り組み状況は。

答 本市では、一般廃棄物処理基本計画に基づき、ごみの減量を計画的に進めているが、新

内には電気自動車の充電設備が少ないと聞くが、今後の取り組みについて聞く。

答 電気自動車は、走行時にCO2を排出しないため、CO2排出量の削減に非常に有効である。充電設備の整備は、国や県、充電設備の事業者等の動向を注視するとともに、他市の先進事例等を参考に、



電気自動車の充電スポット

物処理基本計画に基づき、ごみの減量を計画的に進めているが、新

ごみ処理施設の建設費抑制のため、さらなる取り組みが必要である。ごみ減量は、生ごみの減量と紙類のリサイクルが有効な手段であるため、市の取り組みとして、生ごみを堆肥化する段ボールコンポスト基材の無料配布や、今年度からは紙の再資源化の新たな施策を実施する。さらに市ホームページや広報あかし等の情報発信に加え、

ごみ減量をテーマとするタウンミーティングも開催し、昨年11月には市内で工場を構える企業2社とペットボトル水平リサイクル協定を締結した。今後、より一層のごみの減量に向け、ごみを生み出さないように



生ごみを堆肥化する段ボールコンポスト

協働のまちづくりの推進

地域交付金制度の見直しや 新たな担い手の発掘に取り組む

問 協働のまちづくりを進める上での課題および市の役割を聞く。

答 本市では、小学校区単位で地域課題の解決に向けた市民主体の取り組みを進めるなど、安定的な事業運営につなげる必要がある。

料金改定は、市民生活に大きな影響を与えるため、情報発信や対話の場を設けるなど、丁寧に検討していく。

み、約5200万円のみ、赤字となっている。給水収益の減少は、使用水量の減少によるもので人口減少に伴い、今後さらに収益は減少する。一方、水道事業費用の大部分は固定的経費のため、費用面の削減には限りがある。十分な収益が確保できず、内部留保資金を取り崩す現状で健全な経営状況ではない。そのため、水道料金を改定し、営業活動に必要な収益を確保するとともに、老朽施設の更新のため、料金原価に資産維持費



市民の生活に不可欠な水道

人権擁護委員
推薦に同意
令和6年3月31日をもって任期満了となる人権擁護委員の次期候補者として、再任4人を法務大

臣に推薦することに同意しました。
再任の4人は、増本賀英氏、安田政義氏、奥住貴美子氏、上田久代氏です。
本市の人権擁護委員は13人で任期は3年です。

固定資産評価員
選任に同意
令和5年8月19日から空席となっていた固定資産評価員に佐野洋子氏を選任することに同意しました。

委員会行政視察



市議会では議員の見識を深め、市の施策や審議の参考とするため、先進自治体への視察を行っています。詳しくは、市議会ホームページをご覧ください。

総務常任委員会

防災まちづくりの取り組みについて

■日程 8月1日(火)

■視察先 東京都国分寺市

■視察概要

国分寺市は市民が自分たちのまちのことは自分たちで決め、守る意識を醸成するため市民防災まちづくり学校を開催している。自治会等を単位に防災まちづくり推進地区を指定し防災計画を策定、各地区で自立した活動をしている。

スマートシティさいたまモデルの推進について

■日程 8月3日(木)

■視察先 東京都武蔵野市

■視察概要

武蔵野プレイスは、図書館・市民活動支援・青少年活動支

援・生涯学習支援の機能を有する複合施設である。来館者にゆったりとくつろいでもらえる空間をコンセプトに空間の配置を広く取っている。他園地区において、民間企業との連携による再エネ100%の街区を整備するスマートホーム・コミュニティに取り組みしている。地域コミュニティが多いことが特徴である。



武蔵野プレイスの視察(武蔵野市)

文教厚生常任委員会

のびるndeスクールについて

■日程 7月31日(月)

■視察先 愛知県豊橋市

■視察概要

のびるndeスクールは、授業にない体験活動や専門家による教室、企業などによる出前講座を行うものである。子どもたちの放課後の時間の過ごし方や体力づくりのための放課後の新たな学びの場として、市内全小学校52校で実施している。

ICT教育について

■日程 8月2日(水)

■視察先 愛知県豊田市

とよた多世代参加支援プロジェクトについて

とよた多世代参加支援プロジェクトは、ICT環境の整備、学校休業非常時・緊急時におけるICTの活用を重視している。



多世代参加支援プロジェクトの視察(豊田市)

生活文化常任委員会

リモテラス公益施設の取り組みについて

■日程 8月8日(火)

■視察先 愛知県長久手市

■視察概要

リモテラス公益施設は、市民主体の考え方を基本に、大学連携・観光交流・多文化共生・子育て支援に関連する団体と市民で構成された運営協議会と指定管理者が連携して事業を行っている。市民のやりたいの実現のため、コイデイナーを活用し、人と人をつなぐ新たなつながりづくりを行っている。

令和4年7月に運用開始した富士山Gコインは、利用者が約2万人、加盟店が300店舗と着実に利用が増加している。プレミアム付きデジタル商品券事業を実施したほか、市民活動にポイントを付与することで地域の課題解決や魅力向上につながるなど、まちづくりの推進に活用している。



デジタル地域通貨の視察(御殿場市)

建設企業常任委員会

公共交通の整備について

■日程 8月8日(火)

■視察先 埼玉県川越市

■視察概要

川越市では、高齢者、障害者等の交通手段の確保を目的に市内循環バスの川越シャトル、デマンド型交通のかわまを導入している。どちらも運行経費から運賃収入を差し引いた金額を市が補助しているほか、交通系ICシステム改修経費も市が補助している。

また、地域の防災性向上とにぎわい創出のため、としまみどりの防災公園をオープンし、もしもといつもの両面に対応した設備を兼ね備え、区民がいつでも安心して暮らせるまちづくりを進めている。

■日程 8月9日(水)

■視察先 東京都豊島区

■視察概要

豊島区では、小型の電気バスIKEBUS(イケバス)が走っている。10台の車両を持ち、定員22人、最高速度19キロのバスで、まちの活性化、回遊性を広げる事業のシンボルとなっている。

■日程 8月10日(木)

■視察先 国土交通省

■視察概要

国土交通省では、道路の舗装損傷をAIによる画像分析で自動検知、特殊車両通行確認システムのデジタル化の推進など、道路システムのDX化を進めており、渋滞緩和が期待されている。

イケバスの導入と公園施策について

デジタル技術を活用した渋滞対策について



渋滞対策の視察(国土交通省)

会派の紹介

明石市議会には会派が8つあります。政策を中心とした共通の理念を持つ議員が集まり会派を結成し、議会活動をしています。

自由民主党明石(8人)

自由民主党明石が前へ進めます

現在、社会経済活動ができていないのは先人たちの努力のおかげです。先人たちは「今より未来をもっと豊かに」「子供たちのために」「この国・わがまち明石を発展させたい」といった思いで今を創っていただきました。そうであれば、我々も次代のために知恵を絞り、汗をかきながら努力を惜しまず、本市を成長させねばなりません。約106億円で取得した大久保北部の雑木林等の有効活用、地域経済の足かせとなる慢性化した交通渋滞、公設卸売市場・市民病院等の公共施設の老朽化、長年手つかずの明石港東外港地区・旧市立図書館等々、課題は山積です。この課題を本市の成長へと転換するべく我々自由民主党明石は、最大会派としての責任と覚悟を持って前へ進めてまいります。



左から榎本和夫、灰野修平、辰巳浩司、石井宏法、千住啓介、井藤圭順、三好宏、出雲有希子

公明党(6人)

一人一人に寄り添い
安全・安心で住み続けられる
持続可能なまちづくりを目指します！



一人一人に寄り添い、安全・安心で住み続けられる持続可能なまちづくりを目指します！

市民の会(5人)

市民のための政治を！
『市民目線』でやさしい明石を
これからも



市民の声を届けるとともに、子ども、福祉、高齢者、環境、若者、財政、海、スポーツなど、それぞれの得意分野を生かし、市政の発展につなげます。また、政治をもっと身近に感じてもらうことも、『市民目線』を掲げる私たちのチャレンジ。SNSや市政報告会、広報紙などを通じて、分かりやすく情報発信していきます。

明石かがやきネット(4人)

誰もが安心して暮らせることができ
持続可能なまちづくりを目指します

明石かがやきネットは、同じ方向性を持った4人の仲間と活動している会派です。市民生活の支援やさらなる子育て支援の充実、次世代を担う子どもたちが安全・安心に学べる教育環境の整備、誰もが地域で暮らし続けられるように高齢者や障がい者支援、防災対策など、そんな皆さまの不安な声にできる限り寄り添い、お一人お一人に寄り合い、課題解決に向けて一緒に考えさせていただきます。

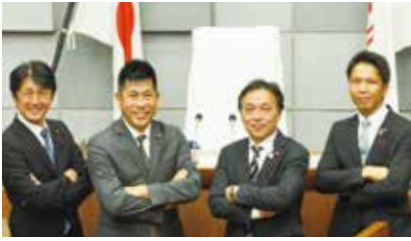


左から林丸美、宮坂祐太、竹内きよ子、寺井吉広

明石維新の会(4人)

市民の皆さまと共に
明るく明石をリデザインする!!

市民の皆さまと共に、明るく明石をリデザインする!!



左から中村茂雄、正木克幸、上田雅彦、高尾秀彰

日本共産党(1人)

くらし・福祉・教育・子育て優先
みんなが安心して暮らせる明石を
これからも

くらし・福祉・教育・子育て優先、みんなが安心して暮らせる明石を、これからも



辻本達也

対話の会あかし(1人)

市民と議員と行政と
対話を通じて明石をつくる

市民と議員と行政と、対話を通じて明石をつくる



中西礼皇

スマイル会(1人)

誰もが安心して暮らせる
やさしいまち明石へ

誰もが安心して暮らせる、やさしいまち明石へ



家根谷敦子

